HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	十勝におけるハイコウリンタンポポPilosella officinarum の現状
Author(s)	持田, 誠
Citation	帯広百年記念館紀要, 32, 31-35
Issue Date	2014-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/55250
Type	journal article
File Information	ilosella.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

十勝におけるハイコウリンタンポポ *Pilosella officinarum* の現状

Inhabitation of *Pilosella officinarum* F.Schultz & Schultz-Bip. in Tokachi region, Hokkaido, Japan

持田　　誠※
Makoto MOCHIDA

はじめに

ハイコウリンタンポポ *Pilosella officinarum* F. Schultz & Schultz-Bip. (=*Hieracium pilosella* L.) は，近年，各地で定着が確認されているキク科の外来植物である。原産地はヨーロッパで，大西洋沿岸地域を中心に自生している他，近年は北東アジア，北アメリカでも帰化植物として定着している事が知られている（Blamey and Christopher 1989）。旺盛に匍匐枝を伸ばして密生する陣地拡大型雑草の性質を持ち，その高い空間占有性から，侵略的外来生物となる懸念がある。

帯広市においても 2011 年に帯広百年記念館駐車場で群生が確認された（持田 2012）。その後，市の広報や新聞などで十勝全域における生育情報の提供を呼び掛けたところ（持田 2011，北海道新聞 2012），20 名を超える方から情報提供の申し出を頂いた。その結果，本種の十勝における生育の現状が明らかとなった。

帯広百年記念館では，提供頂いた生育情報に基づいて現地調査を実施し，本種である事を確認した上で，標本の採集と同定を実施した。本報では，これらの結果明らかとなった，2011-13 年現在の十勝における本種の分布状況を報告する。

1．情報の概要と定着地の状況

1－1．情報の内訳

帯広市におけるハイコウリンタンポポの定着については，初同定の後，広報おびひろや展示によって周知をはかり，十勝管内における生育情報の提供を呼び掛けていた。その結果，徐々に市民からの分布情報が寄せられていたが，2012 年 6 月 15 日付けの北海道新聞帯広面において報道されると一気に拡大し，合計で 33 件の分布情報が収集された。33 件の提供情報のうち，複数の情報が同一地域に関するものだった。これらを整理すると，合計で 7 市町 12 地点の分布情報が得られた形となった（表 1）。

表 1．ハイコウリンタンポポに関して寄せられた市町村別の定着情報件数

帯広市	14	（西 18-20 条：8　西帯広：3　その他：3）
幕別町	7	
音更町	5	（木野東：2　木野西：3）
芽室町	3	
鹿追町	2	
広尾町	1	
浦幌町	1	
合　計	33	

これらの情報に基づき，2012-13 年にかけて，対象植物がハイコウリンタンポポである事を確認する為の現地確認を実施した。その結果，全ての情報が確かにハイコウリンタンポポであった。

最も情報数の多かった地域は帯広市で，14 件の情報提供を受けた。このうち 8 地点は帯広市西 18 条から 20 条にかけての，南 2 丁目から 5 丁目の範囲にある住宅街に点在していた。また，帯広市内

※帯広百年記念館学芸調査員

では西帯広地区からも３件の情報があった他，市内３地点からそれぞれ情報を得た。

帯広市に次いで情報提供数の多かった幕別町は，７件の情報全てが札内地区に関するもので，分布も札内中学校からあかしや団地一帯にかけての住宅地に集中した。

音更町からの情報は，木野東地区と共栄，緑陽台地区の２地点に大別された。住宅密集地の他，段丘下部の沢沿いを利用した遊歩道沿いなどからも確認された。

芽室町，鹿追町は，管理された公園内の芝生などへの定着だった。芽室町では，芽室公園内の一部に群落が形成されている。公園管理者の話では植栽したものではなく，いつの間にか侵入して数が増えたものだと言う。

この他，浦幌町と広尾町からの情報が寄せられた。それぞれ特徴的な環境だったため，概況を記す。

１－２．定着地の状況と要因

（１）浦幌町の事例

浦幌町では，市街地を見下ろす東山山頂に建てられた無線鉄塔の下に個体群が形成されており，円子（2013）により報告されている。ここは消防用無線などの鉄塔が建ち並ぶ山頂部で(図１)，ハイコウリンタンポポは鉄塔下に敷き詰められた砂利に群生している(図２)。

一方，鉄塔下の群生地からやや坂道を下った場所に散発的に個体が観察された事から，種子が風で拡散している可能性が高い。山頂という環境から，放置しておくと種子の飛散を促進させる危険性がある事から，2013 年７月に一部の抜き取り及び結実前の頭花の刈取りを実施した。今後，土地管理者の協力を得て，早期の個体群除去（抜き取り）を実施する必要があると思われる。

浦幌町では，土壌ではなく，砂利に密生している点が特筆される。この砂利が更新された後に本種が目立ち始めたとの話があり，新たに敷き詰められた砂利へ種子が混入していたなどの可能性も考えられる。本種の移入経路や適応環境を考察する上で興味深い事例である。

図１．浦幌町東山の通信鉄塔
この下にハイコウリンタンポポが密生している

図２．鉄塔下の砂利に密生するハイコウリンタンポポ

（2）広尾町の事例

広尾町では，豊似の教員住宅街の一角に小さな群生地が見られた（図 3）。証言は得られなかったが，定着地の状況から，植栽個体が増殖している可能性が高い。

図 3. 広尾町豊似の教員住宅に群生する結実期のハイコウリンタンポポ

広尾町の個体は，植物高，頭花の直径などが，帯広市など他町村の個体とやや異なる傾向があった。植物高はおおむね他町村の個体よりも高く，30cm 程度の大型の個体が主であった。また，頭花の直径もおおむね 2.5–3 cm 程度であり，帯広市の平均 2.0cm に比べると大型であった。

中野・本多（2013）は，石川県金沢市で確認されたハイコウリンタンポポについて，帯広の個体よりも大型であり，種内変異の可能性がある点を指摘している（中野。本多 2013）。広尾町から確認された個体は，中野・本多（2013）が報告する個体よりもさらに大型であり，植物高が高い事から，頭花の数が 1 花である事を除くと，キバナコウリンタンポポ *Pilosella floribunda* (Wimm. et Grab.) Fr. に近い草姿である。

Bishop and Davy (1994) は原産地ヨーロッパにおける 5 タイプの倍数体の存在や形態変異を報告している他，Sell and West (1976) も数種の種内分類群を認めている事から，十勝でハイコウリンタンポポと同定される植物にも，地域により複数のタイプが侵入・定着している可能性が高いと思われる。

2．十勝における分布の現状

分布情報を得られた市町の分布図を図 4 に示した。帯広市を中心に，隣接する幕別町，音更町，芽室町から確認されている事がわかる。しかし，これらの市町での生育地は，大半が住宅街の歩道など限定された範囲で集中しており，市町間を結ぶ国道沿いなどからは確認が無い。

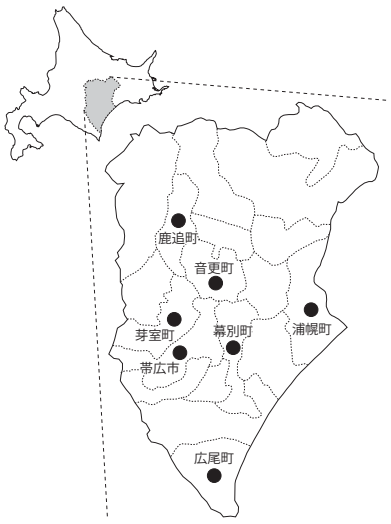

図 4. 2012–13 年現在の十勝におけるハイコウリンタンポポの定着確認地点

これらの定着地の状況から，例えば帯広市で発生した個体を発生源として，周辺町へ分布が拡大したというような帰化の連鎖は考えにくい。各市町の個体は互いに独立した方法・経路で侵入し，ハビタット間での連絡は無い状態で定着しているものと思われる。

現在のところ，隣接する町村でハイコウリンタンポポの定着が確認されていない鹿追町，浦幌町，広尾町でも，生育地はかなり限定的である事から，独自の経路で侵入・定着したものと思われる。また，定着が確認されていない清水町，池田町，豊頃町，大樹町，中札内村，更別村は，定着確認市町の間に挟まれた町村ではあるが，上記の定着確認市町から単純に今後これらの町村へ伝搬していく可能性は低いものと思われる。

一方，今回得られた情報からは，士幌町，本別町以北の北十勝地域からの確認は無かったが，上述の事から考えると，地理的な分布欠落はあまり意味が無い。発生源から離れている町村でも今後突然に個体群が見つかる可能性があり，注意を要する。

十勝におけるハイコウリンタンポポは，2011 年に最初の標本が採集され，同定が行われた（持田 2012）。一方，その後の資料調査により，2002–04 年にかけて実施された帯広市稲田地区の雑草調査の中で，*Pilosella* sp.（ピロセラ）なる植物が記録されていた事が判明した（伊東ほか 2006）。標本は残されていないが，現在の定着状況から推定してこの *Pilosella* sp. はハイコウリンタンポポであった可能性がきわめて高く，おそらく十勝での最初の確認だろう。

道内では 2006 年に遠軽町丸瀬布での採集記録があり，苫小牧市美術博物館に標本が収蔵されている（五十嵐 2012）。また，近年，富山市科学博物館の標本庫から，2005 年に富山市内で採集されたものの，コウリンタンポポ *Pilosella aurantiaca* (L.) F. Schultz et Sch.Bip. に誤同定されていたハイコウリンタンポポの標本が見つかっている（大原・富山県中央植物園友の会植物誌部会 2013）。このように，日本では 2004–06 年にかけて，本種の確認や採集が相次いでいる事から，この頃が日本への侵入時期ではないかと推察される。

3．園芸品との関係

従来，本種は確認された場所の環境から，港湾貨物や芝生などへの種子の混入が原因で，海外から持ち込まれた可能性が推定されていた（持田 2012，大原・富山県中央植物園友の会植物誌部会 2013）。今回，明らかとなった十勝での定着環境を見ても，芽室町や浦幌町など，混入以外の要因が考えにくい箇所が少なからず見受けられる。一方で，かねてより観賞用栽培からの逸失の可能性も指摘されていた（小玉ほか 2011）。

今回，帯広市や音更町在住の複数の方から，上記の分布情報の他に，自らが園芸店で市販されている個体を購入し，現に栽培しているという情報も寄せられた。報道で外来種である事を知って，今後の扱いについて相談を受けたもので，同様の相談は帯広市緑と花のセンターにも寄せられていた。

情報を総合すると，いずれも 2005 年頃より，園芸店で「チシマタンポポ」の名で本種が販売されていたらしい。このうち 1 件の情報で，上士幌町に本種を扱う園芸店が存在した事が明らかになったが，既に該当の店舗は廃業しており，流通経路の解明には至っていない。

購入した人の中には，販売されていた植物名が「チシマタンポポ」だった事から，北海道在来のタンポポ（キク科タンポポ属 *Taraxacum*）の一種だと思い込んでいた人も複数存在した。実は 2011 年に帯広市で採集された個体も，当初はチシマタンポポ *Hieracium alpinum* L. である可能性が疑われていた（持田 2012）。大原・富山県立中央植物園友の会植物誌部会（2013）によると，インターネット上にもハイコウリンタンポポが「チシマタンポポ」の名で販売されているケースがあると報告されており，現在日本で流通している「チシマタンポポ」の流通名が，これらの混乱の原因となっている可能性がある。

今後，本種の園芸流通の実態を詳しく把握すると共に，園芸業界に対してチシマタンポポとハイコウリンタンポポは元来別の植物であり，匍匐枝の有無によって両種が識別できる事，ハイコウリンタンポポには外来種として拡散すると大きな問題を引き起こす可能性が高い点などを普及していく事が必要と考えられる。

謝　　辞

富山県中央植物園の大原隆明氏，石川県立自然史資料館の石川真理子氏には，現地におけるハイコウリンタンポポの情報と共に，重複標本や文献の提供を受けた。伊東応用植物研究所の伊東捷夫氏に

は，帯広市稲田地区での確認事例をはじめ，分布情報全般について多大な御協力をいただいた。円子紳一氏には，浦幌町の定着地について現地を御案内いただいた。小原美知代氏には，ハイコウリンタンポポの園芸販売について情報提供をいただいた。記して謝意を表する。

この他，33 件の情報は，総勢 20 名ほどの十勝在住の市民の方から寄せられたものである。お名前の掲載を控えさせて頂くが，博物館活動への御理解と御協力に深く感謝の意を表するものである。

引用文献

Bishop, G. F. and A. J. Davy. 1994. *Hieracium pilossela* L. (*Pilosella officinarum* F. Schultz & Schultz-Bip.). Journal of Ecology, 82 : 195-210.

Blamey, M. and G. W. Christopher, 1989. The illustrated flora of Britain and northern Europe, pp. 440-441. Hodder & Stoughton, London.

北海道新聞，2012．外来種ハイコウリンタンポポ帯広で自生を確認生態系への影響懸念．北海道新聞（帯広・十勝），2012 年 6 月 15 日号 : 23.

五十嵐博 , 2012．新しい外来植物．菩多尼訶，30 : 7-10.

伊東捷夫・藤倉雄司・本江昭夫，2006．帯広市稲田地区の自生・植栽植物と雑草リスト．雑草研究，51 : 185-201.

小玉愛子・小山留美・五十嵐博，2011. 苫小牧市で確認された帰化植物（概報）. 苫小牧市博物館館報 , 8 : 27-36.

円子紳一，2013．浦幌町の外来種を考える．浦幌町立博物館紀要，13 : 7-14.

持田誠，2011．ふるさと見聞録おびひろの自然 : ハイコウリンタンポポ．広報おびひろ，1050 : 15.

持田誠，2012．帯広市新産外来種ハイコウリンタンポポ *Hieracium pilosella* L.. 帯広百年記念館紀要，30 : 11-14.

中野真理子・本田郁夫，2013．石川県新産キク科外来種キバナコウリンタンポポ *Pilosella caespitosa* (Dumort.) P.D.Sell et C.West とハイコウリンタンポポ *Pilosella officinarum* F. Schultz & Schultz-Bip.. 石川県立自然史資料館研究報告，3 : 11-14.

大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会，2013．富山県フロラ資料 (17)．富山県中央署区仏縁研究報告，18 : 47-60.

Sell,P.D. and C.West, 1976. Hieracium. *in* Tutin T.G. *et al*.(eds), Flora Europea 4, pp.358-410. Cambridge University Press, Cambridge.